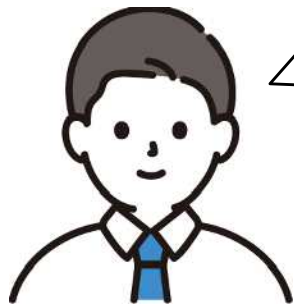


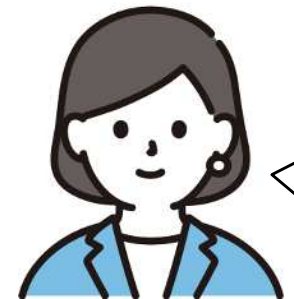
令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書

- ・日 時 令和7年12月1日（月）午後3時45分～午後4時45分
- ・会 場 市立青梅総合医療センター
- ・参加者 東京都立青梅看護専門学校：学生7名
青梅市：青梅市長、副市長、教育長、市立青梅総合医療センター院長

主な意見



青梅市は高齢化率32%で、今後、さらに高齢化が進み、患者の数が増え在宅での医療に移行していったときに、看護師不足や現在の医療体制で高齢者を支えていくことができるのか不安があります。また、地域包括支援センターが充実しているところは良いところですが、少子化の影響で高齢者を支える人の不足とそれに伴い福祉サービスが継続できるのか不安です。
生まれ育った青梅で看護師として働けることをうれしく思っています。多くのニーズの中で役に立てることは、自分にとってとてもやりがいにつながると思います。

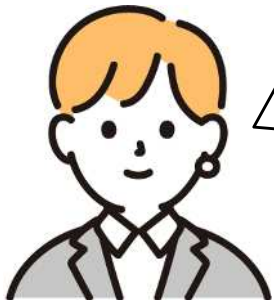


青梅市は医療機関や子育て支援、高齢者へのサポートも充実していて、生涯を通して安心して暮らしていける地域だという印象を持っています。高齢化が進む中でさらなる体制強化や連携が重要と考えています。
これから青梅市で働くにあたって、思いやりを持ってチームで協力する姿勢を大切にしながら、患者様の尊厳に寄り添い、丁寧で質の高いケアを提供していきたいです。また、地域社会の現状に積極的に目を向けながら、利用したい、働きたいと思ってもらえるような地域医療福祉の発展に貢献したいです。



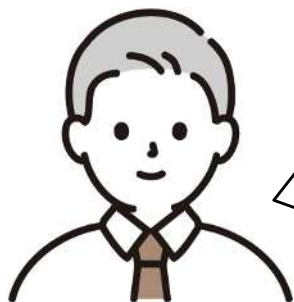
青梅市は自然豊かでありながら高齢化が進む地域であり、医療福祉の充実が今後ますます重要になっていくと思います。特に医療、福祉、行政が連携した支援体制の強化や救急医療の確保、在宅医療の充実、独居高齢者への見守り支援など生活に寄り添った取り組みは地域全体の安心感につながると考えています。
これから青梅市で働くにあたり、相手の立場に寄り添う姿勢を大切に、丁寧なコミュニケーションで患者様に寄り添いたいです。学び続けながら地域の安心と健康に貢献し、よりよい地域づくりを目指したいです。

令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



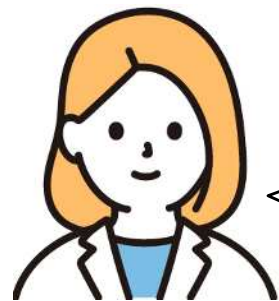
青梅市の地域医療における大きな強みは、西多摩地域唯一の三次救急対応の救命救急センターを持つ市立青梅総合医療センターの存在だと思います。また、高齢化率が高いため、医療・介護・福祉が一体となって支援しており、地域包括ケアシステムが進んでいるのが強みです。しかし、医療従事者の人手不足や通院在宅支援が課題であり、ICTを活用したオンライン診療や住民同士の支え合いの仕組みを強化する必要があります。

祖父を在宅で看取ったとき、病院とステーションとの連携がスムーズで安心して看取ることができました。今後、看護師として働く上で、地域での支援にも貢献していきたいです。青梅市が医療と福祉をつなぐ取り組みをさらに進め、若い世代の医療従事者が地域に関わりやすい環境を整えていくことで、地域全体の健康づくりがより充実すると思います。



青梅市でこれから医療者として働く、また子育て世帯としての視点から、シフト勤務の家庭への支援が必要だと感じます。病院勤務のように土日祝日関係なく働く職種では、こどもの預け先の確保が悩みです。特に小学生になると預け先が減ってしまうのを感じています。また、学童保育の無償化や補助制度の拡充を検討してほしいです。

実習に伴う予防接種の自己負担について、若者支援として市の助成制度があるとうれしいです。さらに、ACP（※）の重要性を実感しており、例えば人工呼吸器をつけたら外せないことを知らないという方も多いので、地域包括支援センターの方が高齢者を訪問するときに伝えたり、地域住民が気軽に話せる場をつくれるといいと思います。



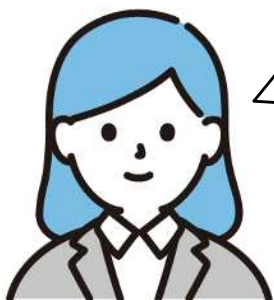
ACPについて、いきなり病院に運ばれてからだちょっと遅いなと思います。普段から市民と関わるのは、市の方や地域包括支援センターの方が多と思うので、データを市で集めておいて、いざ病院に来たときに、市と医療が連携を取って、すぐに情報が取れたりとか、そういうのがあったりすると、連携がスムーズにいくのかなと思います。



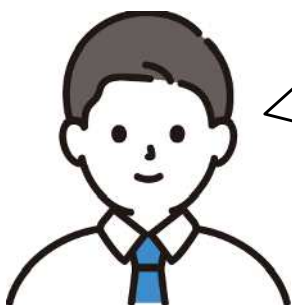
ACPについて、気軽にカフェみたいな感じで話し合えるような場所、情報をもらえる場所があるといいかなと思います。

※ACP・・・アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning)の略称で、もしものときのために、自身が望む医療やケアについて前もって考え、ご家族や医療・ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取り組みのこと。

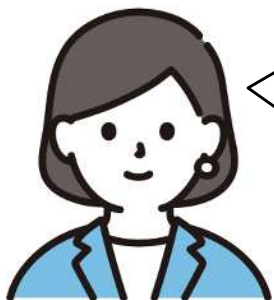
令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



実習を通じ、多職種連携による地域包括ケアの重要性を学びました。今後は、地域の特徴やその人の生活背景を理解して、その価値観や思いに寄り添った看護を実践していきたいと考えています。さらに、多職種と協働しながら地域に根ざした支援ができる看護師を目指します。具体的には保健所や地域包括支援センターの健康教室、予防活動への参加、公共交通課題の話し合いへの参加を通して、高齢者が安心して暮らし、外出できる環境づくりに貢献し、地域全体の健康を支える一員になっていきたいです。



青梅市は産科や助産院不足の課題があります。実習を通じて、切れ目のない子育て支援を継続していくことが大切だと学びました。産後ケアなどの支援が整っていてもSOSを出せない人が多いと感じます。例えば市立青梅総合医療センターがすごく忙しい印象を受けていて、患者さんが相談しやすい環境づくりの難しさを感じました。患者様が安心して声を上げられる環境をつくるため、地域と医療者が協力しながら、1人ひとりに寄り添った看護を実現することが重要だと思います。



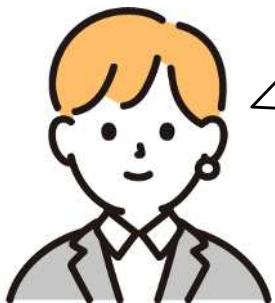
ACPの話しにくさを解消し家庭内での話を促すため、市役所などの市の施設や、駅前、憩いの場になっていそうなカフェなどで情報発信し、自然とその情報が入ってくる環境になるとよいと思いました。

また、青梅市は自然が豊かで、東京まで直通で行くことができ、青梅でしか満たせないニーズがあると思います。そういったところを発信し、移住希望者や自然の中で暮らしたい若い世代や子育て世代を取り込むことで、少子高齢化が改善に向かっていくと考えました。

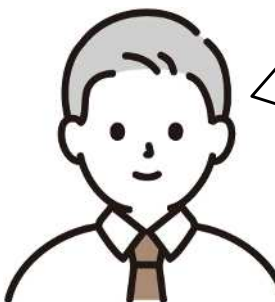


看護師の理想の働き方としてちょっとぽっと浮かんだのが、すごい残業が多くてなかなか帰れないという状況は、看護師の仕事に就きにくい理由なので、人材確保とかすごく難しいと思うんですけど、どうしたら残業が減るのかと思います。

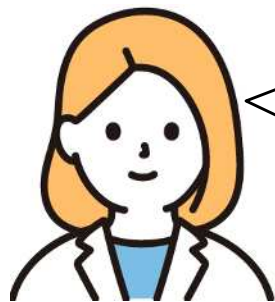
令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



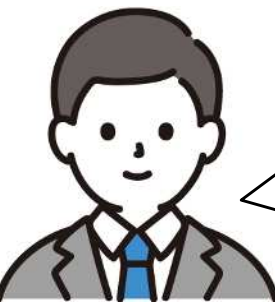
青梅駅西部では公共交通機関の本数減少により、通勤通学等の方の電車の待ち時間が多く、アクセスの悪さから移住を促す要因になっている可能性があるため、公共交通機関の本数を増やすことや何か他の打開策となるような工夫をしていただきたいと思います。
また、最近クマが街中に出没し獣害が増えており、人々の安全を守るために青梅市の具体的な策を検討してほしいです。



青梅市は自然が豊かで落ち着いた環境や歴史・文化が残っていて、地域に愛着を持つ人が多いところも地域コミュニティの強さにつながっていると感じています。妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援や保育園の副食費の無償化などは保護者の負担軽減に繋がり、若い世代の定住や将来にわたる持続可能なまちづくりに不可欠な取り組みだと思います。一方で、地域間の生活利便性の格差など地域の活気が失われつつあることも課題だと捉えています。SNSでの発信や地域イベントなどを通して、世代を超えた交流の場を増やすことで地域全体の活性化にも繋がると思います。

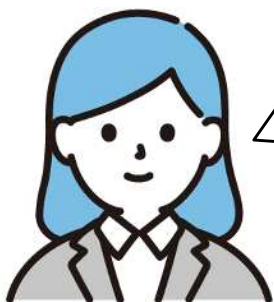


看護学校や多摩リハビリテーション学院の学生が、青梅市の健康づくり事業や福祉活動、ACPについて学生の立場から関わって市民の方と一緒に学び合える場をつくることで、行政と学校、地域住民が協力しながら、住みたい・働きたい・支え合いたいと思えるようなまちづくりが進んでいくのではないかと感じました。

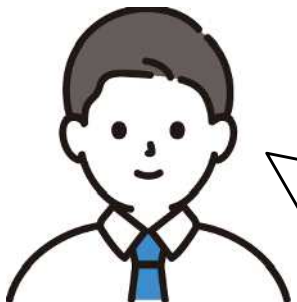


シフト勤務における有給取得について、独身の方は休む理由を言い出しづらく、育児中の人との差が生じるため、上司が有給取得を統一的に促進することで、全員が休みを取りやすい雰囲気をつくると働きやすくなると思います。
看護師の業務負担軽減のため、胃ろう準備を栄養士が担う、検査出しでスタッフが迎えに来るなどの工夫をすることで、看護師が患者様と関わる時間を増やせると考えました。

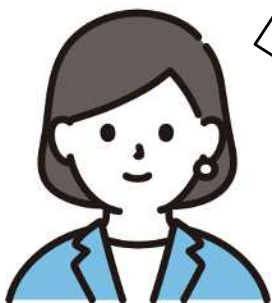
令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



青梅市は自然と市立青梅総合医療センターという医療の中核がある安心感が大きい街だと感じています。市外の学生という立場から日常生活の快適さという点で、公共交通の不便さと若い世代を呼び込む魅力不足が課題と考えます。公共交通では、特に高齢者や車を持たない市民の方の外出の壁をなくすことが重要で、バス路線や運行時間の改善に加え、デマンド交通やアプリや電話の予約で簡単に利用できる仕組みなど新たな移動手段の導入の検討をお願いしたいです。若い世代の定住促進には、都心に負けないような独自の教育支援やリモートワーク支援などを強化し、青梅に住みたい、働きたいと思える具体的な施策をアピールすべきだと考えます。



青梅市のことを知らない方や、青梅市に住んでいない方にも伝わるように、若い世代はホームページを見ることがあまりないので、青梅市に住んでいる方しか知らない情報をInstagramなどのSNSで発信していくとよいと思います。



ACPについて、スーパーマーケットの掲示物では必要な人しか見ないと思います。年代別にどんな支援があるかもわからなくて、調べることができない、調べようとしていない方が市役所に行ったときに、職員の方には、看護のように寄り添いながら具体的な支援内容や窓口を強く案内することをお願いしたいです。業務的に言われると「行かなくてもいいかな」と思う方も行動すると思います。

